技術協力の歩み

諸外国との交流が広がり，深まるにつれ，土木関係でも海外活動の重要性が強く認識されてきました．特に若い技術者の活躍が期待されています．

わが国の経済協力の総額は1964年には2.7億ドル（GNPの0.36%）でアメリカ合衆国の5.5%にすぎませんでしたが，10年後の1973年には58.4億ドル（GNPの1.44%），合衆国の77.6%とOECD加盟国中で第2位を占めるに至りました．しかし，政府開発援助額は第4位で，また留学生・研修員の受入れおよび専門家の派遣人員はまだ十分とはいえません（図-1）．

国際協力事業団（JICA）が，建設，公益事業，運輸の分野で1974年3月31日までに行った研修員の受入れ，専門家の派遣および開発調査のため派遣した調査団の人数を国別にみると，土木関係で関係の深い国々が浮び上ってきます（図-2）．

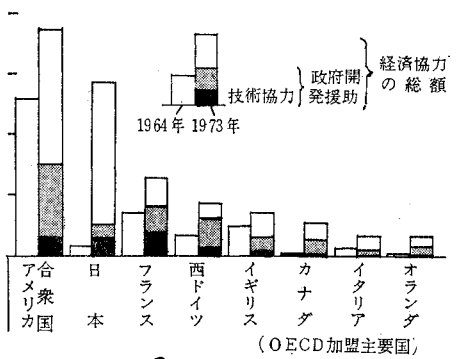
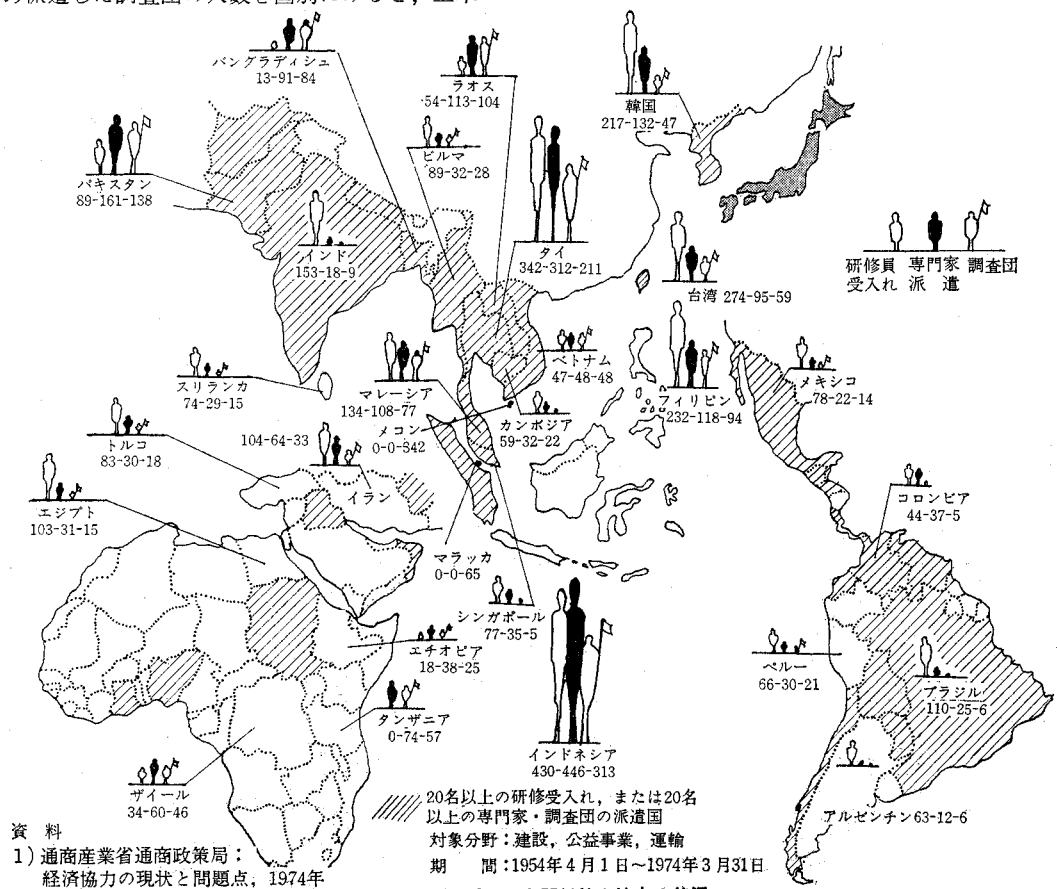


図-1 経済協力の状況



資料
1）通商産業省通商政策局：経済協力の現状と問題点，1974年
2）国際協力事業団：技術協力年報，1974年．

図-2 土木関係技術協力の状況